

海に見える交流館周辺設計業務

仕様書

1 業務名称

海に見える交流館周辺設計業務

2 契約期間

令和8年8月中旬から令和9年3月26日を予定している

3 業務範囲

本業務の対象範囲は隠岐の島町中町地内とする（別紙1-1、1-2、1-3の通り）

4 業務目的

隠岐の島町の海の玄関口である西郷港周辺は、かつて多くの人々が行き交うにぎわいの中心であった。近年、まちの機能が郊外に拡散する中で、玄関口エリアとしての都市機能の強化が重要となっている。町では、このエリアを魅力ある場所へ再生するため、平成30年度から住民参加による「西郷港周辺まちづくり」に取り組んでいる。西郷港周辺まちづくりの基本理念は「海とまちをつなぎ世代をつなぐまちづくり」であり、「公と民をつなぐ」「海とまちをつなぐ」「世代をつなぐ」の三つのプログラムで構成されている。

海に見える交流館は、この取り組みの一環として整備を進めているものであり、周辺広場と一体となって、多様な世代が集い交流し、新たな活動が生まれる拠点となることが期待されている。

また、令和9年度以降にはフェリーターミナル側を含む海側において新たなにぎわい空間の形成を計画しており、交流館周辺についてもこれらと連続した一体的な空間づくりを進めている。

本業務はこの交流館周辺に整備する広場およびみちについて、交流館と一体となった利用を見据え、子どもたちも含めた住民参加により、地域の思いやそれに基づく活動・機能のニーズを把握し、多様な世代が集い交流し新たな活動やにぎわいが生まれる「海とまちがつながり世代がつながる空間」を創出するための設計を行うことを目的とする。

5 業務内容

業務内容は、次のとおりとする。

(1) 与条件の整理

- 「海とまちをつなぎ、世代をつなぐ」空間づくりに向け、別紙参考資料や町ホームページ、都市計画課 Instagram 等を参照のうえ、これまでの取組を踏まえた関連計画等を把握し、整理すること。
- 各種設計条件の整理と確認
- 各種設計基準の抽出と適用の確認
- 現地詳細調査

(2) 住民参加型ワークショップの企画・実施

- 広場の使われ方や必要な機能を把握し、将来の広場の姿を住民と共有しながら検討を進めるため、子どもたちを含めた地域住民、関係団体等を対象としたワークショップを実施すること。各ワークショップの準備、運営、検証等を担うこと。
- ワークショップは意見の聴取にとどまらず、実際の利用行動や活動・機能のニーズを把握することを目的として実施するものとする。そのため、うみやまもつとあつまれ横の既存広場等を活用し、仮設的な仕掛けや試行的な取り組みを行うことで、住民が将来の広場の使われ方を具体的に体験・想像できるようにすること。
- 実証によって得られた知見を整理し、地域住民をはじめとする関係者との合意形成を図ったうえで設計に反映すること。

(3) 諸施設の検討および設定

- 交流館周辺の空間を一体的に活用することを見据えた広場およびみちに必要となる機能、施設の検討
- ワークショップおよび合意形成の結果を踏まえた空間構成の検討
- 将来の海側エリアとの連続性に配慮した検討
- 広場が自発的な活動や交流を誘発する仕掛け、仕組みの検討
- 滞留空間、植栽、照明、景観等の検討

(4) 設計図等の作成

- 配置図、平面図、断面図等の作成
- 鳥観図または透視図の作成

(5) 概算工事費の算出

(6) 設計説明書の作成

- 上記検討資料を取りまとめた報告書の作成

6 業務管理

- (1) 業務全体の進め方、ワークショップ計画、スケジュール等を示した実施計画を提出すること。
- (2) 設計方針、ワークショップの内容および進め方、広場構成の検討結果、成果品の内容等、業務の重要な事項については適宜発注者と協議し、確認を得ながら進めること。
- (3) 業務を適正かつ円滑に実施するため、受託者と発注者は打合せを行い、業務方針の確認、条件等の疑義をただすものとし、その内容については受託者がその都度記録する。その際必要に応じてスケッチ、資料等を作成すること。様式は DocuWorks を使用し電子納品とする。記述内容を相互確認した上で電子印を押印し、議事録として提出及び双方保管すること。

7 業務成果品

- (1) 業務成果品は電子データ正副各 1 部を納品する。
- (2) 電子データは PDF とデータ原稿を納品する。

- (3) 電子データ原稿は Microsoft Word、Excel および DocuWorks（打合せ議事録等）を標準とする。
- (4) CAD データは SFC 形式とする。

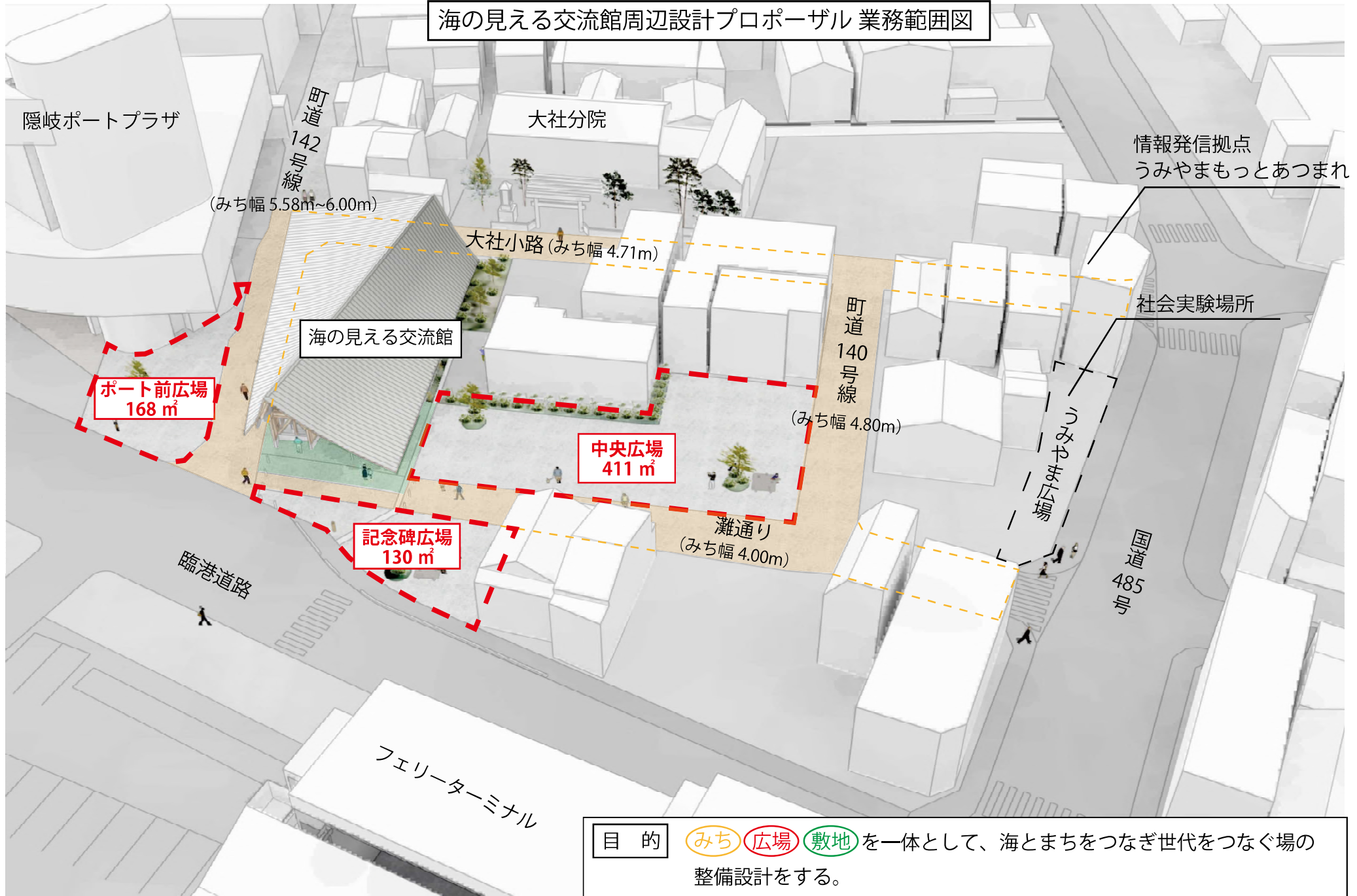
8 留意事項

- (1) 受託者は、本業務を遂行するにあたり、関連の法令及び本仕様書を遵守するとともに、町の意図及び目的を十分に理解した上で、適正な人員を配置し、正確に業務を行わなければならない。
- (2) 本町と連絡調整を十分に行い、円滑に業務を実施することとする。
- (3) 本業務においてはアイノマゲート推進協議会、アドバイザーボード、海の見える交流館運営事業者の意見を反映すること。
- (4) 本業務の遂行上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。契約期間の終了又は解除後も同様とし、本町の許可なく第三者に閲覧、複写、貸与又は譲渡してはならない。従事する者が離脱した場合も同様に遵守させること。
- (5) 受託者は、本業務の全部若しくは大部分を一括して第三者に委託し、又は請け負わせることができない。ただし、町が認めた場合は、業務の一部を第三者に委託し、又は請け負わせることができる。
- (6) この仕様書については、基本仕様書とし、追加すべき事項等が生じた場合は本町と受託者と協議し追加できるものとする。

海に見える交流館周辺設計プロポーザル 業務位置図



海の見える交流館周辺設計プロポーザル 業務範囲図



海の見える交流館周辺現況写真



隠岐ポートプラザ

国道 142号線

海の見える交流館

ポート前広場

臨港道路

記念碑広場

大社分院

中央広場

灘通り

フェリーターミナル

国道 140号線

うみやまもつとあつまれ広場

情報発信拠点
うみやまもつとあつまれ

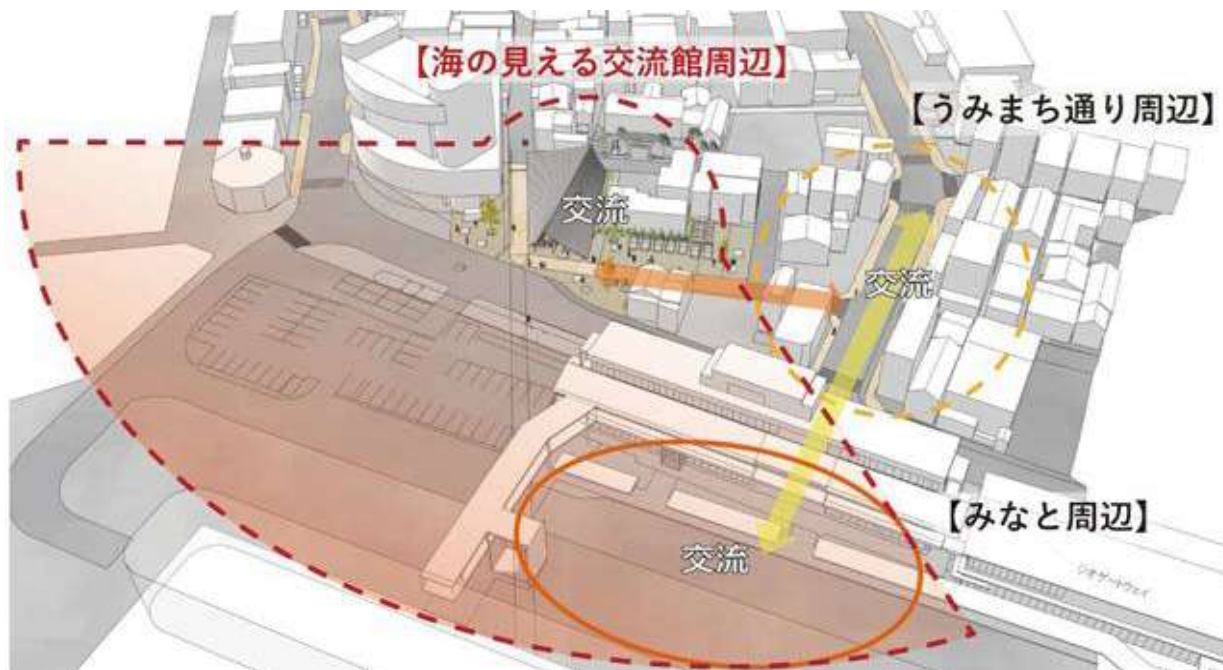
社会実験場所

国道 485号

海とまちをつなぐまちづくりについて

西郷港周辺地区整備の骨格として、海とまちをつなぎ、多世代が集い活動を楽しむ舞台となる2つの交流の主軸「うみまち通り」「海の見える交流館とその周辺広場」を整備し、その沿道に新たな交流・商業・暮らしの拠点機能を整備します。

うみまち通り、海の見える交流館とその周辺広場の2つの軸線が交わる港湾エリアの広場と、軸線上の交差点を、それぞれ性格の異なる3つの「交流の重心」として、海とまちに開かれた交流の場として一体的に整備します。



▲西郷港周辺地区の全体計画図と交流の重心・拠点施設の配置の関係

交流の重心 港湾エリア / ターミナル

島の玄関口であり、新たな2つの交流軸が交わる港湾エリアは、ターミナル・港湾部の一体整備により、交通・待合・交流機能が充実したエリアになります。

交流の主軸 うみまち通り / 新築

国道485号は、海とまちをつなぐ象徴の「うみまち通り」となり、新設の沿道建築と一体となって、日常利用や待合時間を豊かにするみち広場となります。

交流の主軸 海の見える交流館 / 周辺広場

交流館の1階には、民間運営による飲食店とセントラルキッチン、2階には、子どもから高齢者まで誰もが利用できるインクルーシブな公共スペースが整備されます。



西郷港周辺 まちづくりのあゆみ

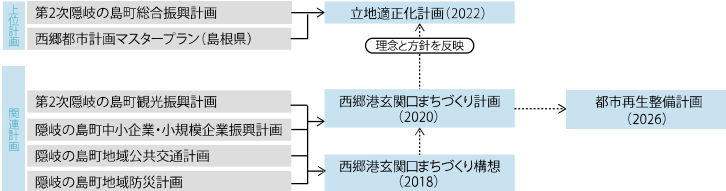
概要版

2026



計画の関係

西郷港周辺まちづくりは、上位計画、関連計画のもと、隠岐の島町と本土を結び、また島内全域の交通と交流の起点となるエントランスエリアの活性化を実現するための計画です。西郷港周辺まちづくりのあゆみは、西郷港玄関口まちづくり計画（2020/以下、「玄関口計画」という）から始まり、多様化したまちづくりの全体像を示し、各プロジェクトの取組を反映して作成しました。



理念と方針

玄関口計画においては、にぎわいと安心・安全の実現のため、空間的・地形的・時間的な観点から「海とまちをつなぎ、世代をつなぐまちづくり」を基本理念として定めています。本計画では、上記の理念を踏襲し、達成するための核となる計画として、「交通拠点」「交流」「商業」「生活」「景観」などの多様な機能の創出に関し、**①公と民をつなぐ②海とまちをつなぐ③世代をつなぐ**という、三つの「つなぐ」プログラムを連動させていくこととしています。

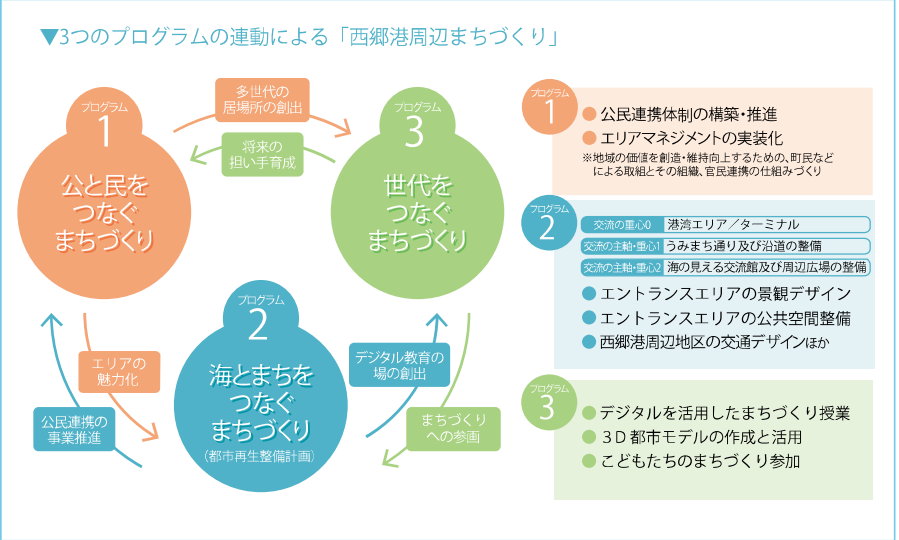
(参考)西郷港玄関口まちづくり計画の〈基本理念〉

海とまちをつなぎ 世代をつなぐまちづくり
～にぎわいと安心・安全の実現～

「西郷港周辺地区の整備」を核として「みち」「かわ」「台地」がつながること、エントランスエリアの活性化を実現する

3つのプログラム

西郷港周辺まちづくりは左記の通り、複数のプロジェクトで構成される3つのプログラムとして「①公と民をつなぐまちづくり」「②海とまちをつなぐまちづくり」「③世代をつなぐまちづくり」で構成されています。3つのプログラムを連動しながら進める事で、基本理念である「海とまちをつなぎ 世代をつなぐまちづくり」を実現していきます。



西郷港周辺まちづくりの計画範囲



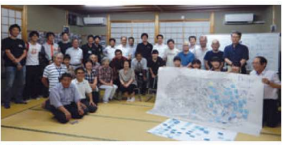
まちづくりの経緯

H0 (2018) 年度	西郷港玄関口まちづくり構想の想定
R1 (2019) 年度	まちづくり教育 (11回開催) 小学校授業、中学校授業 (計14回開催) 布徳・五箇・郡万区長会議 町・島根県・関係部局実務者WG
R2 (2020) 年度	西郷港玄関口まちづくり計画策定委員会 (5回) 西郷港玄関口まちづくり計画の策定
R3 (2021) 年度	隠岐の島町都市再生デザイン会議設置 西郷港周辺地区デザインコンペの開催
R4 (2022) 年度	隠岐の島町立地適正化計画の策定 都市再生整備計画 (西郷地区) の策定
R5 (2023) 年度	地産者の会 アイノマ推進協議会 小・中・高発表
R6 (2024) 年度	地産者の会 アイノマ推進協議会 小・中・高発表
R7 (2025) 年度	計画実現に向けて継続中
R8 (2026) 年度	計画実現に向けて継続中

▲西郷港周辺まちづくりの経緯

まちづくり談義

住民や学校の生徒達とともに、エントランスエリアの課題とまちづくりの方向性に関する議論を経て、玄関口計画を策定しました。



▲まちづくり談義の様子

西郷港周辺地区整備アドバイザーボード

玄関口計画に基づき、専門的な見地から検討を行うために設置されました。委員は西郷港周辺地区デザインコンペの審査委員も努めました。

▼西郷港周辺地区整備アドバイザーボード

桑子敏雄	東京工業大学名誉教授 (座長)
布野修司	滋賀県立大学名誉教授 (建築)
橋本成仁	岡山大学教授 (都市交通)
秋田典子	千葉大学教授 (景観)

隠岐の島町西郷港周辺地区デザインコンペの実施

西郷港周辺地区のデザインコンペを開催し、全国42作品の応募の中から第一次・第二次審査を経て、最優秀作品が選定されました。提案内容をもとに検討を進め都市再生整備計画策定・事業化が行われました。



▲デザインコンペ二次審査の様子



▲最優秀作品のパネル(一部)

スケジュール

西郷港周辺まちづくりは、都市再生整備計画の2期 (第2期 R10～14は予定) にあたる10年での実現を目指し、3つのプログラムを連動しながら、並行して進めていきます。

プログラム	内容	第1期					第2期				
		R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14 (2032)
プログラム1 公と民をつなぐまちづくり	公民連携体制の構築	基礎的検討			(a) 及び (d) の事業化						
	エリアマネジメントの実装化	準備組織の立ち上げ			エリアマネジメント活動のスタート				(b) (c) (e) (f) の事業化検討		
プログラム2 海とまちをつなぐまちづくり	交流の垂心0 港湾エリア / フェリーターミナル								港湾エリア整備/臨港道路整備		
	交流の垂心1 うみまち通り及び沿道				うみまち通り (国道485号)				フェリーターミナル改修		
	交流の垂心2 海の見える交流館					官民連携施設 (d)				官民連携施設 (c)	
プログラム3 公と民をつなぐまちづくり	エントランスエリアの景観デザイン										
	エントランスエリアの公共空間整備								西郷公園・台地アクセス		
プログラム3 公と民をつなぐまちづくり	デジタルを活用したまちづくり授業										
	3D都市モデルの作成と活用										
	子どもたちのまちづくり参加										

※第2期については現時点の想定であり、今後変更になる可能性があります。

▲西郷港周辺まちづくりのスケジュール

プログラム1 公と民をつなぐまちづくり

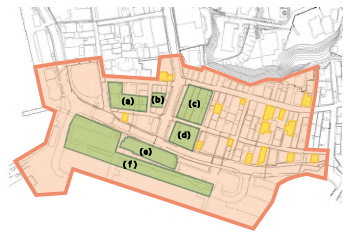
公民連携体制の構築

西郷港周辺地区の活力を取り戻すためには、地域住民の皆さんや事業者による自律的な民間組織の存在が不可欠です。隠岐の島町はそのプラットフォーム（場・組織）の構築において並走するとともに、まちづくり活動を支援していく立場にあります。まち全体の再編を進め、地域の活力を取り戻すための「①エリアマネジメント会社」と個別事業を推進する「②事業会社」という性質・役割の異なる組織の連携により、段階的に公民連携のまちづくりを推進します。

隠岐の島町は制度設計の立場で、公民連携まちづくりに関わる仕組みや環境の整備に努めます

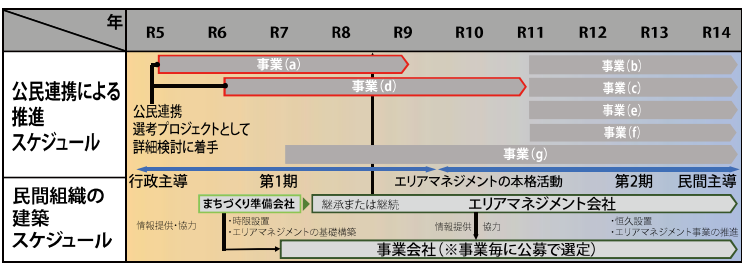
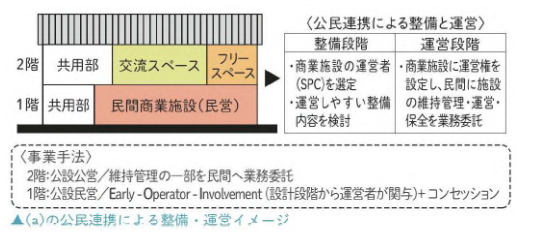
公民連携事業の推進

エリアマネジメント事業の範囲は西郷港周辺地区の全域を想定しています。公民連携事業の実施にあたっては、地区の特性と導入機能、VFM（Value-for-Money/支払に對し最も価値の高いサービスを提供する方法）などを勘案し、個別に事業手法を選定、あるいは組み合わせ、最適な手法を導入することとします。先行的に着手する（a）は公設民営による事業実施を前提として、（d）については公民双方の費用負担の有り方や投資能力などを整理した上で、適切な事業手法の選定と検討を進めています。



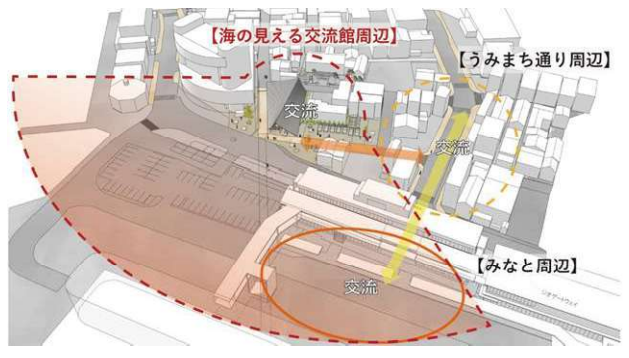
- 将来にわたり活気のある地域とするため、公民連携により、担い手づくり、価値創造などの制度設計といった内容を検討・実行して事業
- 民間事業者主体や金融機関等との連携により、地域経済の状況や社会情勢に合わせた柔軟な事業推進を目指す事業
- 事業承継希望者、新規創業者希望者、エリアへ進出したい内外の企業などを対象に、個別の課題や要望を把握し、既存物件を活用する事業

事業箇所	事業の概要
—	エリアマネジメント事業の範囲(西郷港周辺地区全域を想定)
(a)	交流施設と地場特産品の販売施設等の複合施設
(b)	商業・暮らしの機能等の複合施設(2期のため未定)
(c)	交流・商業・暮らしの機能等の複合施設(2期のため未定)
(d)	交流・商業・暮らしの機能等の複合施設
(e)	交通拠点(フェリーターミナル)の改修・店舗等の再編・複合施設(2期のため未定)
(f)	港湾緑地の賑わい機能(2期のため未定)
(g)	空き家や空き店舗を活用したリノベーションプロジェクト



プログラム2 海とまちをつなぐまちづくり 隠岐の島(アイノマ)ゲート - 次世代まちづくりのための西郷港 -

“アイノマ”とは、異なる性質の部屋をつなぐ間の部屋（間の間）のことを指します。西郷港周辺地区を隠岐の島町の（アイノマ）として見立て、町民・来訪者等が求める“新しい日常”や“非日常”の体験がつながる、まちづくりの基盤を築いています。西郷港周辺地区整備の骨格として、海とまちをつなぐ、多世代が集い活動を楽しむ舞台となる2つの交流の軸「うみまち通り」「海の見える交流館とその周辺広場」を整備し、その沿道に新たな交流・集会・商業・暮らしの拠点機能を整備します。うみまち通り、海の見える交流館とその周辺広場の2つの軸線が交わる港湾エリアの広場と、軸線状の交差点を、それぞれ性格の異なる3つの「交流の重心」として、海とまちに開かれた交流の場として一体的に整備します。



▲西郷港周辺地区の全体計画図と 交流の重心・拠点施設の配置の関係

交流の重心
港湾エリア/ターミナル

島の玄関口であり、新たな2つの交流軸が交わる港湾エリアは、ターミナル、港湾部の一体整備により、交通・待合・交流機能が充実したエリアとなります。



▲西郷港周辺地区整備イメージ (エリアデザインコンペ決定提案)

交流の軸
うみまち通り/新築

国道485号は、海とまちをつなぐ象徴の「うみまち通り」となり、新設の沿道建築と一体となって、日常利用や待合時間を豊かにするみち広場となります。



▲海の見える交流館とその周辺広場

交流の軸
海の見える交流館/周辺広場

交流館の1階には、民間運営による飲食店とセントラルキッチン、2階には、子どもから高齢者まで誰もが利用できるインクルーシブな公共スペースが整備されます。

プログラム3 世代をつなぐまちづくり

デジタルを活用したまちづくり授業

町内小・中学校や高校で、リモートワークシステムなどを通じ、デジタルを活用しながらまちづくりを学ぶことで、子どもたちのデジタルに関する知識とまちづくりに関する関心を深め、将来に向けたキャリア教育を行っています。



▲交流館のデザインを選定する中学校でのまちづくり授業 (西郷中学校)

3D都市モデルの作成と活用

町内の土地利用に関する検討や災害発生時の避難道の確認、魅力あるポイントなど、まちの情報を3D都市空間に可視化する活動を、小中学校の授業で行っています。まちづくりの実践活動として継続して行っています。



▲3D都市モデル作成に向けたフィールドワーク (西郷小学校)

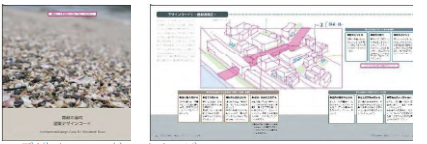
子どもたちのまちづくり参加

まちづくりの仮拠点であるうみやまもつとあつまれにおいて、高校生によるチャレンジショップ、販売実習、eスポーツ大会の開催など、子どもたちが主体として参加する機会を設けることにより、本来の隠岐の島町を担う存在となる子どもたちの地域に対する愛着やほこりを育みます。

今後の取組

西郷港周辺地区デザインコード策定

エントランスエリアの景観の特徴や、本計画の建築・公共空間のデザインの考え方を地域の方々と共に共有し、将来の景観計画につなげるデザインコードを作成します。



▲デザインコードのイメージ

エントランスエリアの公共空間整備

西郷港周辺地区整備の効果を、エントランスエリア（中町・東町・西町・港町）における生活環境の改善につなげていくため、4町の地域住民の方々ともまちづくりの議論を重ねるとともに、西町防災広場整備、歩車共存道路整備（八尾川沿い水辺空間）、台地アクセス路再整備など重要な公共空間の整備事業を進めます。



▲エントランスエリアへのまちづくりの展開

海とまちをつなぐ港湾エリアと交通デザイン

海とまちをつなぐ、世代をつなぐ交流の重心となる港づくりを進めます。また併せて、交通拠点機能の再編を行い、利便性と快適性を両立させる豊かな空間づくりを進めます。



▲エリアデザインコンペでの提案イメージ ▲交通拠点の再整備イメージ

NEWSLETTER

Volume 1, 15 January 2025

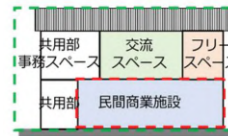


海見える交流施設（大社エリア交流・民間商業施設） 2027年OPENに向けて

2つの初

海見える交流施設は、町が運営する交流施設（2F）と、民間が運営する商業施設（1F）から成る複合施設です。多世代が集まって交流できる場所となります。町民の皆様が愛着を持てるような施設を目指しています。

町の取り組みとして初めての官民連携事業であり、西郷港周辺まちづくり最初の建物です。最適な設計案を選ぶためにコンペティションが行われます。



全国から150社以上の 参加表明

隠岐の島町では、西郷港周辺の「大社分院通り」沿いに海のみ見える交流施設として新しく建設するための設計案を募集しました。

驚くことに、全国から150社以上の参加表明がありました。

提案作品はデザインコンペの応募作品としてすべて展示されます。



まちづくりに参加する!!

全国から集まった設計案を展示します。多様なデザイン作品を、ぜひご覧ください。

目に留まった作品の一つを選んでいただくことが、まちづくりに参加する一つの方法です。

町民の皆様の声を反映するため、魅力的な設計案に投票してください。投票結果は、審査委員が最終的な選考を行う際の重要な参考資料となります。

◇展示期間◇

2/13(木)14:00 ～ 2/25(火)12:00まで

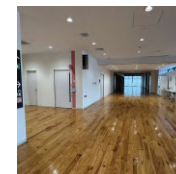
8:30～17:15

※2/13と2/25は時間が変わります。

※土日祝もOPEN

◇展示場所◇

隠岐の島町役場1階 町民ホール



役場1F 町民ホール



官民連携による『海に見える交流館』の設計者と運営事業者を決定しました。

西郷港周辺まちづくりのあゆみ

2018年(平成30年)

- 西郷港周辺の活性化を目的とし、町民参加のまちづくり談義をスタートしました。

2020年(令和2年)

- 西郷港玄関口まちづくり計画を策定しました。

2021年(令和3年)

- 町民の皆さまと意見交換会を重ね、西郷港周辺のデザインを募集するコンペの仕様書を作りました。
- 小中学生・高校生とのまちづくり授業を開始しました。

2022年(令和4年)

- デザインコンペを開催し、最優秀作品をエリアデザインとして決定しました。デザイン集にこれまでのまちづくりのあゆみをまとめました。



まちづくり談義の様子



デザイン集

2023年(令和5年)

- 「地権者の会」を設置しました。
- エリアデザインの基本計画づくりを開始しました。

2024年(令和6年)

- 西郷港周辺まちづくりの全体像を説明するため「西郷港周辺まちづくりシンポジウム」を開催しました。
- まちづくり仮拠点「うみやまもっとあつまれ」をオープンしました。



うみやまもっとあつまれ
オープンの様子

2025年(令和7年)

- 3月10日運営者を決定しました。
- 3月29日コンペを実施し設計者を決定しました。

- 『海に見える交流館』2027年(令和9年) オープンに向けて準備を進めています。

西郷港周辺まちづくりプロジェクトに関するニュースレターVol.2をお届けします。

7年前から始まった西郷港周辺まちづくりは、「海とまちをつなぎ 世代をつなぐまちづくり」を理念としています。西郷港は、隠岐の島町の海の玄関口であり、町全体の活力を高める大切な場所です。

『海に見える交流館』の整備は、全国でも先進的な官民連携の手法を取り入れています。

『海に見える交流館』の運営者については、全国に公募し、審査委員会の審査を経て2025年3月10日に決定しました。官民連携とは 町有施設を建設前に民間の運営者を決定し、運営者が運営権を町から取得することで、施設の設計から共同で進める手法です。

運営者に続いて、交流館のデザインを決めるために全国設計コンペを行いました。一時審査の後2025年3月29日に公開プレゼンテーションとヒアリングを役場町民ホールで開催し、その後に審査委員会の審査を経て設計者を決定しました。

▼設計コンペの作品は、すべて一般公開しました。

▼公開プレゼンテーション・ヒアリングの様子



公開プレゼンテーション・ヒアリングの様子を、
YouTubeにて配信しております。

YouTube QRコード



YouTube 検索



海に見える交流施設コンペティション

『海見える交流館』の設計者と運営事業者を紹介します。



海見える交流館の設計は、隠岐の島町と旅工舎&幸正丸と河内建築設計事務所が一緒になって進めます。

(株)河内建築設計事務所
設計者 河内一泰 代表



だれもが立ち寄れる大きな屋根をかけた軒下広場など、多世代が交流できる場所をつくります。

●『海見える交流館』イメージ



交流館の1階は飲食を中心とした空間で、軒下の広場も生かして利用者が楽しむ場を提供します。2階は、多世代が海を見ながら交流できる空間とします。

海見える交流館の設計は、町民の意見を聞きながら、運営者と隠岐の島町で進めます。



八幡洋公代表



1階運営事業者

旅工舎 & 幸正丸



隠岐の食材を使った食事の提供と特産品の販売を行います。
軒下広場も活用し、集いの場に！

飲食店の営業について

隠岐の食材を使ったメニューを中心に、地元のお客様はもちろん島外のお客様にも喜んでいただけるお料理を提供します。

さらに、テイクアウトや学生向けメニューの拡充を行い、誰でもどんな時でも気軽に利用できる店舗を運営します。

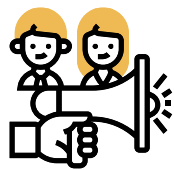
隠岐特産品の販売について

隠岐の自然の恵みを活かした特産品を加工製造し島内外に販売します。

地元農林水産事業者との連携を密にし、商品開発に取り組み隠岐ブランドの価値向上を目指します。



※イラスト・写真はイメージ



まちづくりシンポジウム 2025 海見える交流館 開催のお知らせ

交流館とその周辺の計画について、設計者・運営者を交えて直接意見交換ができる場です。

◎日時 2025年6月22日(日) 13:30~17:00(13:00開場) ◎会場 隠岐の島町役場 町民ホール



Instagramで
まちづくりの情報を
発信しています

西郷港周辺まちづくりプロジェクトに関するニュースレター Vol.3 をお届けします。このニュースレターでは、現在進行中のプロジェクトに関する取り組みを町民の皆さまへお知らせします。

開催報告

「まちづくりシンポジウム」を開催しました

開催日時：令和7年6月22日（日）13:30～17:00 **開催場所：**役場町民ホール

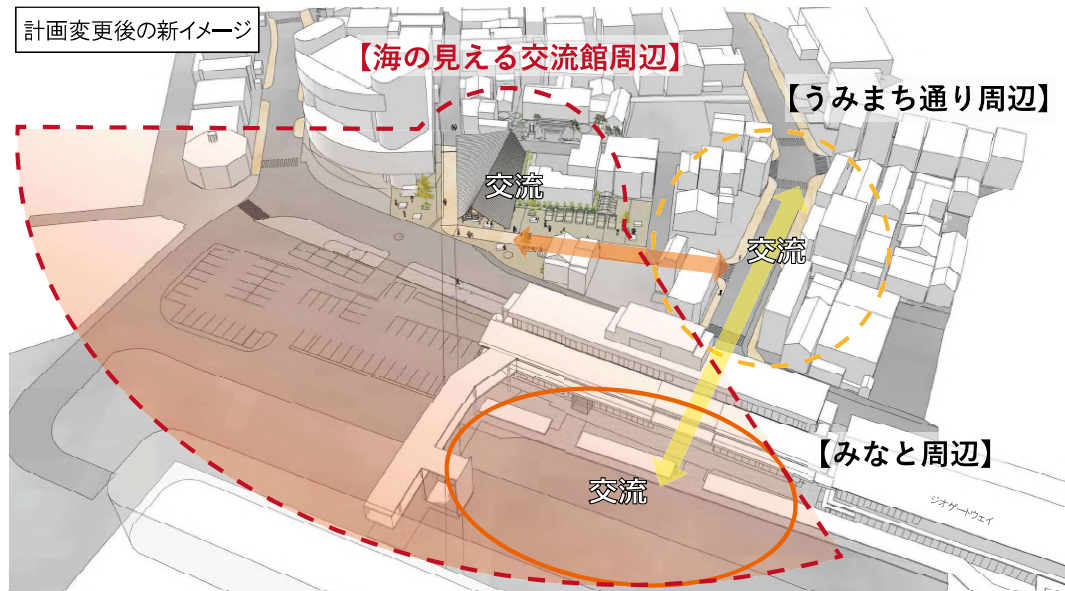
内容：【講演】①西郷港周辺まちづくりの経緯と展開
②隠岐の島町再生をみんなで楽しく
【パネルディスカッション】

- ①交流館1階での飲食・物販を中心とした交流の展開について
- ②交流館と広場の設計について

今回のシンポジウムでは、西郷港周辺まちづくりの全体像と、2年後のオープンを目指している「海見える交流館」の計画概要が共有されました。

初めに、石田傑都市計画課長が「西郷港周辺まちづくりの経緯と展開」について説明しました。この中で、海見える交流館の周辺計画の変更について詳述しました。当初は出雲大社西郷分院と海を結ぶ大社分院通りを整備する計画でしたが、**交流館とその周辺広場を一体として海側に開く方針に見直しました。**この新たな方針により「海とまちをつなぎ 世代をつなぐ」という目標を達成する計画となったことを述べました。

計画変更後の新イメージ



次に、滋賀県立大学名誉教授であり、海見える交流館設計コンペ審査委員長を務めた布野修司氏によるビデオレターが上映されました。このビデオレターでは「隠岐の島町再生をみんなで楽しく」をテーマに、地域の生態系を活かしたコミュニティベースのまちづくりの重要性が語られました。インドネシアの「カンボン」の事例を紹介し、地域住民や各分野の専門家など、様々な関係者が協力し取り組む大切さが強調され、西郷港周辺まちづくりでも多様な人々が関わって進めていく必要性が示されました。



シンポジウム開催にあたり挨拶をする
池田高世偉町長



西郷港周辺まちづくりについて説明を
する石田傑都市計画課長

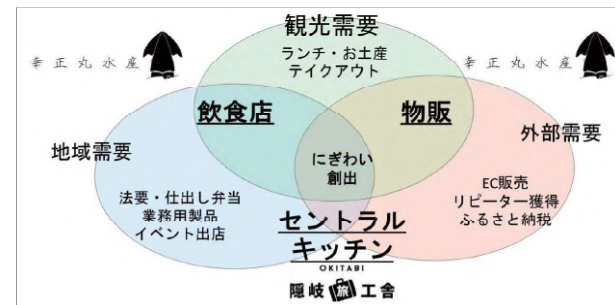


コミュニティベースのまちづくりの重要
性を語る布野修司氏

パネルディスカッションでは、交流館1階の活用について、運営者である隠岐旅工舎&幸正丸の八幡洋公氏から説明がありました。地元食材を使った料理を町民や観光客が楽しめる場となる計画や、セントラルキッチンを導入することで効率的な食材加工が可能になる仕組みが紹介されました。



交流館1階の活用について説明をする
隠岐旅工舎&幸正丸 八幡洋公氏



セントラルキッチン、飲食店、売店を運営し、仕入れから消費までを一貫して行う構想を示すイメージ図

続いて、設計者である河内建築設計事務所の河内一泰氏からは、軒下広場を備えた交流館の設計内容の説明がされ、多目的利用が可能な空間の提案がされました。



交流館の設計内容の説明をする河内
建築設計事務所 河内一泰氏



海見える交流館の最新イメージ図

終盤には、運営者、設計者、町長、ファシリテーターの東京工業大学名誉教授で西郷港周辺まちづくりアドバイザーの桑子敏雄氏を交えた参加者との意見交換が行われました。ここでは西郷港周辺まちづくりの今後の展望や具体的なアイデアが活発に議論されました。

参加者からのご意見・ご質問と回答（意見交換、アンケートより抜粋）



軒下広場は利用価値が高い。他の地区の人たちも市場や屋台出店ができ、西郷港が他の地区とつながるきっかけになる。



軒下広場で、夏場のビアホールや朝市の定期開催を考えています。誰もが心地よく過ごせるスペースを目指します。



運営者の回答



地産地消の方法についてどのように考えているか。



地産地消を推進するためには、事前に農業者や漁業者と話し合い、「どんな野菜や魚が必要か」を共有することが重要だと考えます。これにより、需要と供給のバランスを取りながら、効率的で持続可能な取り組みを行いたいです。



運営者の回答



交流館や広場を活用しながら、どのように地域全体を魅力的にする計画を進めていくか。



交流館と広場を含む、地域全体を歩きたくなるような広がりを持つまちづくりを目指します。皆さんの意見を聞きながら、工夫して地域の魅力を活かした計画を進めていきます。



設計者の回答



バスなどの公共交通と連携し、高校生が利用しやすくなれば良い。



地域の公共交通の改善については引き続き取り組んでいきます。西郷港周辺についても様々な方のご意見を聞きながら検討を進めていきます。



町の回答



まちづくりにおいて民間事業者が主導して動く力が不足していると感じる。交流館はPFI方式で進めているとのことだが、賃貸とどう違うのかわからない。



交流館は、運営者が設計段階から関わることで、利用しやすく運営もしやすい建物を目指しています。この手法により、民間事業者との協働を通じて、効率的な運営と地域の持続可能な発展を実現します。



町の回答



シンポジウムの参加者が少ないと感じる。まちづくりの情報周知が不足しているので、もっと住民を巻き込む工夫してほしい。



次回以降のイベント等では事前告知の改善に努め、より多くの皆さまにご参加いただける形を目指します。ニュースレターの発行、Instagram、ホームページでの発信など、情報発信の強化に取り組んでまいります。



運営者の回答

意見交換では、参加者の皆さまから幅広い視点のご意見をいただきました。海の見える交流館をはじめ、西郷港周辺まちづくりは着実に進展しています。町民皆さまの声を大切にしながら魅力的で持続可能なまちづくりを目指してまいります。



西郷港周辺まちづくりの情報発信拠点「うみやまもっとあつまれ」では、情報発信に加えて、まちなかににぎわいを生み出すために様々な活動を行っています。ここではその活動の内容を町民の皆さまにお知らせします。

報告1

隠岐高生がつくる「にぎわいの場」うみやまもっと広場を華やかに

隠岐高校商業科3年生まちづくり班と共に、うみやまもっと広場をより魅力的な場所にするための取り組みを進めました。高校生たちが考えた「にぎわい」とは、笑顔が溢れる人々の集いの場。どうしたら広場がそうした場所になるかを話し合い、試行錯誤を重ねてアイデアを形にしました。

まず、「座りたくなるベンチ」を作ることを決定。ベンチや広場壁面の色を試作しながら選定し、7月5日にイベント「うみやまもっと広場華やか大作戦」を開催しました。このイベントでは地域の子どもたちと一緒にベンチにペイントをしました。

完成したカラフルなベンチは、広場に新たな魅力を生み出しました。高校生たちの熱意と地域の協力によるこのプロジェクトは、うみやまもっと広場を誰もが訪れたい場所へと変えていく第一歩になりました。



イベントの様子



完成したベンチと記念撮影

報告2

隠岐水産高生がつくる「隠岐水ラーメン」の試食販売会を開催

隠岐水産高校海洋生産科3年生が、実習授業の一環として「隠岐水ラーメン」の開発に取り組んでいます。その取り組みの中で、サバ出汁のラーメンスープ試飲会が7月5日の「うみやまもっと広場華やか大作戦」で行われました。

さらに、7月10日には、うみやまもっと広場で隠岐水ラーメンの試食販売イベントが開催されました。地域の方々が隠岐水ラーメンの味を堪能し、広場はにぎわいに包まれました。



イベントの様子

予告

うみやまもっと広場に大型ディスプレイが設置されます

株式会社サードウェーブ様より、企業版ふるさと納税を通じて寄附をいただき、この寄附を活用して、うみやまもっと広場に大型ディスプレイを設置します。ディスプレイは、まちづくりの情報発信やパブリックビューイング、eスポーツイベントなどで活用される予定です。設置は10月頃に予定されており、うみやまもっと広場で新たなにぎわいを創出します。

西郷港周辺まちづくりプロジェクトに関するニュースレター Vol.4をお届けします。このニュースレターでは、現在進行中のプロジェクトに関する取り組みを町民の皆さまへお知らせしています。今回は、「世代をつなぐまちづくり」の一環として、町内の各学校との連携による取り組みをご紹介します。あわせて、現在進行中の関連事業についてもお知らせします。

特集① 子どもたちと共に進める まちづくりの取り組み

◆ 隠岐高校商業科 まちづくり班がつくる うみやまもつと広場のにぎわい

隠岐高校商業科3年生の課題研究授業における「まちづくり班」と連携し、うみやまもつと広場の魅力向上を目的とした活動を実施しています。課題研究は、生徒自らが課題を設定し、調査・実践・制作等を通じて解決に取り組む授業です。「まちづくり班」では、西郷港周辺のにぎわい創出をテーマに、うみやまもつと広場を拠点としたイベント企画などを通じて地域の活気につなげる取り組みを進めています。

令和7年度の1学期には、「うみやまもつと広場華やか大作戦」と題し、廃材パレットを活用したベンチのペイントイベントを実施しました。地域の子どもたちと協力してペイントを行い、広場に彩りを加えるとともに、屋台も出店し多くの来場者でにぎわいました。



7月5日に開催した「うみやまもつと広場華やか大作戦」の様子



完成した広場の様子

うみやまもつと広場を笑顔のあふれる集いの場にします！



まちづくり班メンバー

2学期には、1学期に制作・設置したベンチを活かして、広場のさらなる活用につながる「西郷港まちづくりフェス2025」の開催を予定しています。本イベントでは、ゲーム大会への参加者だけでなく、来場者全体が楽しめる企画を通じて、地域のにぎわいづくりを目指します。

「西郷港まちづくりフェス2025」

日時：令和7年11月15日(土) 10:00～14:00
 内容：マリオカート8 デラックスゲーム大会(トーナメント制)
 対象：小学生、中学生、高校生から大人まで幅広い世代
 その他：ゲーム体験コーナー、屋台出店等を予定しています
 詳細は役場ホームページまたは都市計画課インスタグラムをご確認ください



イベント企画会議の様子



◆ 隠岐水ラーメンの味を西郷港周辺へ

隠岐水産高校海洋生産科3年生が、授業の一環として、地元の水産物を活かしたサバ出汁の「隠岐水ラーメン」のレシピ考案に取り組んでいます。令和7年7月にはうみやまもつと広場で試食販売などの活動も行われました。

町では、こうした高校生の学びを地域資源の一つとして捉え、西郷港周辺の空き家利活用事業(※裏面参照)との連携の可能性について検討を進めています。飲食店の減少という地域課題に対し、高校生のアイデアが新たなにぎわいづくりにつながることを期待しています。



7月5日開催「うみやまもつと広場華やか大作戦」の様子

◆ 隠岐養護学校と考える「海見える交流館」の使い方

隠岐養護学校とは、「海見える交流館」の今後の活用について意見交換を進めています。「生徒たちが制作した製品の販売」や「カフェのような場づくり」などのアイデアが寄せられており、今後の展開に向けて一緒に可能性を探っているところです。これまでも、意見箱の制作や、「西郷港まちづくりフェス2024」イベント開催時にパウンドケーキを提供していただくなど、まちづくりの活動にご協力いただいています。

◆ まちを歩き、まちを描く 小中学生のまちづくり授業

地域への愛着を育み、未来のまちづくりを担う力を育てることを目的に、毎年「まちづくり授業」を実施しています。学校と連携し、子どもたちが自分たちの暮らすまちを多角的に見つめ、考える機会を作っています。

昨年度は、西郷小学校と西郷中学校で防災とデジタルをテーマにした授業を行いました。授業では、子どもたちが通学路を歩いて、段差や溝、倒れそうな塀など災害時に危険となる場所を調査し、写真や位置情報をタブレットで記録しました。調査した情報は、子どもたち自身がパソコンを使って整理し、ウェブツールを活用して地図にまとめました。

こうして完成した「デジタル防災マップ」には、子どもたちが見つけた危険箇所と、浸水区域や土砂災害警戒区域などの災害リスクが重ねて表示されます。地図を見ながら避難ルートを検討することで、災害時の行動を具体的にイメージするきっかけになりました。



フィールドワークの様子



地図作成の様子



完成したデジタル防災マップ

子どもたちの作ったデジタル防災マップは以下のURLおよび二次元コードから閲覧することができます。

okinoshima-bousai.reearth.io



※デジタル防災マップは画像や情報量が多いため、通信環境が良い場所での閲覧を推奨しています。

今年度は、「まちのごとくらしマップ」と題し、地域で働く方々への取材を通じて、子どもたちが将来の自分と地域社会とのつながりを想像する力を育てます。発表会では、仕事の内容や風景を直感的にイメージできるマップを活用予定です。

各学校との取り組みの様子は、都市計画課インスタグラムでも紹介しています。授業の雰囲気や子どもたちの活動の様子をご覧いただけます。今後の取り組みも順次発信してまいります。



都市計画課
インスタグラム

特集② 西郷港周辺まちづくりに関連する事業のご紹介

「うみまち通り」の設計をおこなっています

実施事業者：株式会社ワールド測量設計

フェリーターミナル前の国道485号の一部を「うみまち通り」として整備する設計業務を進めています。この通りは海とまちをつなぐ象徴的な空間として位置づけられ、沿道に新築される建築物と一体となって通行者が日常や待合時間を快適に過ごせる“みち広場”となります。

整備では歩道の拡幅を中心に、歩行者にとって魅力的な空間づくりを進めます。歩道の整備は島根県が担当し、舗装や景観整備などの美装化は町が担当します。

令和9年度の整備に向けて地域の皆さまに親しまれる空間づくりを目指します。

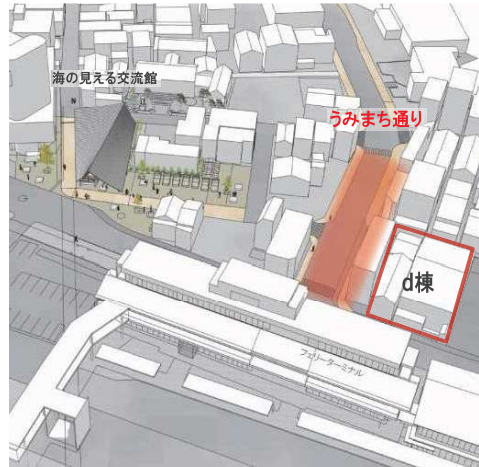
「うみまち通り」の社会実験をおこないます

実施事業者：株式会社アテナ

「うみまち通り」の整備に先立ち、今後の空間利用や交通環境の変化を事前に確認するための社会実験の実施を検討しています。この実験では、国道485号の一部において車線を一時的に狭めることで、歩道空間の拡張を仮設的に再現し、以下の点から検証を行う予定です。

- 歩道空間を活用したイベントや日常利用の様子
- 車両の通行速度や交通への影響
- 空間の使い方に関する住民の印象や課題の把握

本実験は「うみまち通り」が地域にとってより良い空間となるよう、地域の皆さまに整備後のイメージを共有するとともに、課題の洗い出しを目的としています。現在は実施内容や時期などについて検討を進めている段階です。詳細が決まり次第改めてお知らせいたします。



整備計画図

「海の見える交流館」と周辺広場の設計をおこなっています

実施事業者：河内建築設計事務所

「海の見える交流館」は、建物と広場が一体となって海へとひらける空間となるよう計画しています。

1階には飲食を中心とした民間事業者による商業スペースを設け、2階には子どもから高齢者まで幅広い世代が利用できるインクルーシブな交流施設を整備します。

本施設の整備は、町と民間事業者が連携しながら、地域のにぎわいと交流の場づくりを進めています。



最新イメージ図

大城山避難路の歩きやすさ向上に向けた設計をおこなっています

実施事業者：有限会社互大測量設計

大城山への避難路は、西郷小学校の通路路としても利用されています。これらの道は道幅が狭く段差も多いため、安全性や歩きやすさに課題があることから、より歩きやすい道となるよう整備に向けた設計を進めています。



設計をおこなう路線

地域拠点「d棟」の整備に向けて 民間事業者との連携を探る調査をおこないます

実施事業者：株式会社エイト日本技術開発

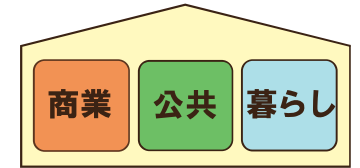
西郷港周辺まちづくりの拠点の一つとして整備を進める「d棟（まちづくり交流支援センター）」について、事業者参画に向けた調査をおこないます。

昨年度には、町内事業者を対象にアンケート調査および聞き取り調査を実施し、施設の整備・運営に関する意向を確認しました。その結果をふまえ、今年度は町外の事業者も対象に、参画の可能性を探る調査を進めます。

今回の調査では、町外事業者の参画によって地域にもたらされる効果（経済効果や地域内調達率など）を整理し、持続可能な運営体制の構築に向けた検討を進めます。



整備位置図



d棟の構想イメージ図

この施設には、民間事業者が整備する建物の一部に町の交流機能などを設ける予定です。公と民が連携し、地域のにぎわいにつながる空間づくりを目指します。

西郷港周辺の空き家利活用に向けた調査をおこないます ※

実施事業者：一般社団法人隠岐まちづくり研究所

西郷港周辺には長らく使われていない空き家が点在しています。こうした空き家を地域資源としてとらえ、まちのにぎわいにつながる可能性を探るための調査を実施します。この取り組みでは、事業展開を希望する事業者に向けて、店舗として活用できる物件を調査し、新規店舗の出店を試す実証実験（チャレンジショップ）もおこないます。

空き家をチャレンジショップとして活用することで、地域に新たな動きが生まれます。さらに出店希望者にとっても事業の可能性を試す機会となることが期待され、新たな担い手の創出にもつながります。

今回の調査では空き家の状況や所有者の意向、出店希望者のニーズなどを整理しながら、利活用の可能性を探ります。



空き家をチャレンジショップとして活用
→ 西郷港周辺の にぎわいを創出

隠岐の島町景観計画の策定が始まります

実施事業者：株式会社エブリプラン

隠岐の島町では、大山隠岐国立公園や隠岐世界ジオパークに認定された美しい自然、歴史的建造物、文化的な町並みなど、地域ならではの景観を大切に守り育てていくため、「景観計画」の策定を進めています。この計画では、新しく建てられる建物のデザインや広告物の配置など、景観に影響を与える要素について区域ごとにルールを定め、調和のとれたまちづくりを目指します。来年度末の計画策定に向け、10月から町内各地区で住民説明会をおこなっています。

次号予告

9月27日（土）、28日（日）に開催した、海の見える交流館周辺整備に関するワークショップの様をお知らせします。発行は11月中旬を予定しています。

西郷港周辺まちづくりプロジェクトに関するニュースレター Vol.5 をお届けします。このニュースレターでは、現在進行中のプロジェクトに関する取り組みを町民の皆さまへお知らせしています。

今回は、9月末に開催した海の見える交流館周辺整備に関するワークショップの様子をお知らせします。また、実施している社会実験や、その他まちづくりに関連する取り組みについてもお知らせします。

開催報告

海の見える交流館周辺整備に関するワークショップを開催しました

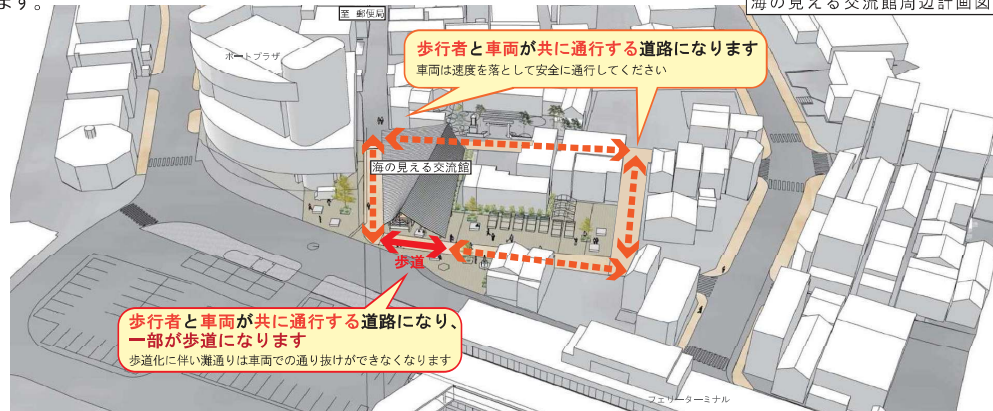
開催日時：令和7年9月27日（土）14:00～16:00 / 28日（日）9:00～11:00
 会場：サカータプロス（中町目貫の四54-7）・現地（フィールドワーク）

◆ ワークショップ概要

本ワークショップは、海の見える交流館およびその周辺整備の計画について、地域の皆さまに計画内容をお伝えし、現地を確認しながら意見交換を行うことを目的として開催しました。令和7年9月27日・28日の両日、同じ内容で実施し、交流館周辺整備や交流館2階の活用に関する説明のほか、フィールドワークや意見交換を通じて、参加者の皆さまから多様なご意見をいただきました。

◆ 海の見える交流館周辺道路の整備について

はじめに、交流館周辺のまちの計画についてご説明しました。整備の目的は、歩行者が安心して通行できる環境の確保と、まちと海のつながりを意識した空間づくりです。ポートプラザ横の道路は、車両の速度を自然に抑えるため、幅員を約4メートルに設定する計画です。また、灘通りの一部は歩道とし、車両の通り抜けを制限することで、歩行者の安全性を高めます。これにより、フェリーターミナルから交流館、ポートプラザへとつながる動線が形成され、地域内の回遊性が向上するとともに、海辺の景観を活かした交流空間の創出が期待されます。さらに、舗装仕上げの色や素材を工夫することで、歩きやすさと景観の調和を図ったまちづくりを行います。



◆ 海の見える交流館2階の活用について

続いて、交流館の整備計画について、特に2階部分の活用について焦点を当てて紹介しました。2階は多世代が集える交流スペースとして整備を進めており、福祉事業者による活動、高齢者のサロン、キッチンを活用した料理イベント、養護学校との連携による利用など、地域の多様なニーズに応える場として活用していく考えであることを説明しました。

交流館2階イメージ図▶



◆ 整備計画を現地で確認

会場での説明後、参加者の皆さまとともに実際に交流館の計画地周辺を歩き、整備予定箇所を確認しました。道路にテープを張り、整備後の幅員を示しながら、現地での説明を行いました。参加者の皆さまには計画内容を具体的に体感していただきました。



フィールドワークの様子 (ポートプラザ横道路)

◆ 意見交換と参加者の声

会場に戻ってからは、意見交換を行いました。交流館の整備や周辺環境の変化について、現状の良いところや今後への期待、2階スペースの活用方法などについて、付箋を用いて自由に意見を記入いただき、参加者同士で共有しました。(以下、意見交換会より一部抜粋)



交流館建設により、周辺の店や民家がどうなるか心配。



地権者の皆さまには説明を行い、交流館の建設について了承を得ています。そのほかの関係者の皆さまについても説明を進めていますが、個人財産にかかわるためご協力いただくことが難しい場合もあります。その際はコンセプトを維持しながら柔軟にまちづくりを進めていきます。



交流館周辺の道路の幅は現状のままが良いのでは。灘通りの一部を歩道化すると遠回りになってしまう。



現状の道路幅でも危険は感じないとの意見もありますが、一方で、歩行者が安全に通行できる道とした方が良いという意見も多くあります。また、周辺には複数の迂回路があり、車での通行に大きな支障が出ないようにしています。町の方針としては、歩行者の安全性をより高めることを目的に整備を進めていきます。



駐車場のスペースが十分あると良い。



10台程度の駐車もできる広場を交流館横に設ける予定です。そのほか近隣の土地を活用し、少し歩く距離にも駐車場を整備する計画としています。



交流館2階の使い方について、町民の実用性がある建物にしてほしい。



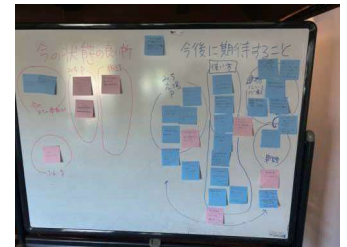
福祉事業者との連携により、障がいのある方や高齢者も目的をもって集まれる場を目指します。多世代交流やデジタル教育に加え、小学校、中学校、高校、養護学校との連携も視野に入れています。



▲参加者が意見を記入する様子



▲意見交換会の様子



▲いただいた意見を整理した様子

◆ ワークショップを終えて

今回のワークショップには、10代から70代の幅広い年代の方々にご参加いただきました。終了後のアンケートでは、交流館ができることや周辺環境が変わることについて、「今より良くなる」との期待が多く寄せられました。そうした変化に期待する一方で、「よくわからない」「少し難しかった」との声もありました。今後も具体的なイメージを添えながら、より分かりやすくお伝えできるように努めていきます。

お知らせ

**歩いて楽しいまちに向けて
 みちと広場の色と素材を考える
 ワークショップ**

会場 うみやまもつとあつまれ (中町目貫の四38)

11/22(土) 11/23(日)
 13:30～15:30 10:00～12:00 ※両日も同じ内容です

海の見える交流館の軒下広場や周辺の広場・道路とうみやま通りの舗装仕上げについて、色や素材を考えるワークショップを開催します。これからのまちの表情を一緒に考えてみませんか？

開催報告

西郷港周辺にぎわい創出社会実験を開催しています

開催日時：令和7年11月9日（日）～12月11日（木）

場所：国道485号 西郷港フェリーターミナル前からうみやまもつとあつまれ前まで

◆ 目的

フェリーターミナル前の国道485号の一部は、「うみまち通り」として整備される予定であり、海とまちをつなぐ通りとしての活用を計画しています。この通りは通行のための動線にとどまらず、周辺施設の利用前後や移動の合間に過ごせる「みち広場」としての機能を持たせることで、まちの中に新たな滞留の場を生み出すことを目指しています。

今回の社会実験では、既設のうみやまもつと広場と歩道をにぎわい創出空間として活用するため、車道側に仮設の歩道を設け、歩行者が安全に通行できる環境を確保したうえで、ベンチやテーブル等を配置し、歩道と一体化した滞留空間を試行しています。このような空間が、日常の中で人の滞在や交流の契機となるかを検証し、整備に向けた今後の検討に活かしていきます。

◆ 内容

実験空間では、既設歩道側に整備した滞留空間を活用し、様々な過ごし方の試行をしています。くつろげるテーブルスペースのほか、近隣店舗の協力によるオープンカフェや子どもが遊べるスペースを設けています。また、時間帯によっては屋台による軽食や弁当の販売も行われており、通行者が立ち寄りやすい環境づくりを通じて、空間のにぎわいの可能性を検証しています。



◆ 西郷港周辺にぎわい創出社会実験に屋台出店いただける方を募集しています ◆

時間帯

①11:00～13:00 / ②13:00～15:00 / ③15:00～17:00 / ④17:00～20:00

期間中は、平日・休日にかかわらず何日でも申し込みできます。時間帯は①～④のうち、何枠でも申し込み可能です。屋台の枠、テント、テーブル、椅子をご用意します。詳細は都市計画課までお問い合わせください。



隠岐高校商業科まちづくり班とつくる 世代をつなぐ港のにぎわい 「西郷港まちづくりフェス2025」を開催しました



詳細は都市計画課インスタグラムでも公開中です

開催日時：令和7年11月15日（土）

場所：うみやまもつとあつまれ及び広場、国道485号西郷港フェリーターミナル前

本イベントは、隠岐高校商業科3年生まちづくり班が企画・運営を担い、世代をつなぐまちづくりの一環として実施されました。

当日は、フェリーターミナル前の国道485号を歩行者天国とし、まちづくり拠点施設「うみやまもつとあつまれ」および周辺広場を活用した空間づくりが行われました。会場では、ゲーム大会や飲食スペースの設置など、来場者がそれぞれの目的で楽しめる場となりました。

ゲーム大会には、7歳から20代までの幅広い世代がエントリーし、うみやまもつとあつまれ内での対戦を通じて世代間の交流が生まれました。大会の運営は高校生が主体となって行い、受付や進行、会場整理などを通じて地域との関わりを深める機会となりました。



▲会場の様子



▲ゲーム大会の様子



▲ゲーム大会の様子

一方、屋外では屋台出店を含む飲食コーナーや隠岐高校商業科の販売実習ブースが設けられ、来場者が飲食や買い物を楽しめる空間としてにぎわいました。



▲会場の様子



▲飲食スペースの様子



▲企画・運営を行ったまちづくり班メンバー

今回のフェスは、高校生による企画を通じて、地域に新たなにぎわいが生まれる可能性を示す取り組みとなりました。今後も、若い世代の視点を活かしたまちづくりの展開が期待されます。

参加報告

スマートアイランドEXPO2025に出展し、官民連携に向けた対話をおこないました

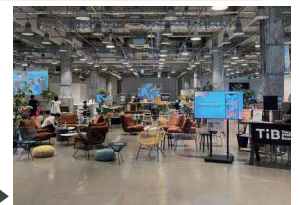
開催日時：令和7年10月9日（木）

場所：Tokyo Innovation Base（東京都千代田区丸の内3丁目8-3）

国土交通省の依頼を受け、まちづくりの取り組みを紹介し、離島での事業展開に関心を持つ民間企業との意見交換を行いました。複数の企業から具体的な関心や質問が寄せられ、官民連携に向けた対話の機会となりました。

今後も地域の課題や可能性を共有しながら、持続可能なまちづくりに向けた協働を進めていきます。官と民が価値を共有し、つながることで世代をつなぐまちづくりを育む流れを踏まえ、隠岐の島町のまちづくりに根差した官民連携の可能性を開いていきます。

スマートアイランドEXPOの様子▶



西郷港周辺まちづくりに関するご意見・ご感想をお聞かせください



西郷港周辺まちづくりプロジェクトに関するニュースレター Vol.6 をお届けします。このニュースレターでは、現在進行中のプロジェクトに関する取り組みを町民の皆さまへお知らせしています。今回は、「海見える交流館」の計画内容をご紹介します。あわせて、11月に開催したワークショップの様子や、にぎわい創出に向けておこなった社会実験の取り組みについてもお知らせします。

特集 「海見える交流館」どんな施設になる？ 設計の概要を紹介します。

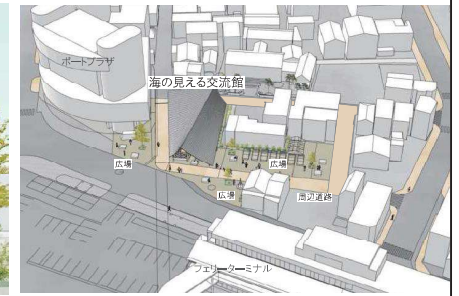
隠岐の島町は、西郷港周辺まちづくりの一環として、「海見える交流館」の整備を進めています。この施設は、交流館周辺の広場と一体的に整備することで、海とまちをつなぐ新たな交流拠点となります。

町は令和7年3月に設計者および運営事業者を決定し、両者と連携しながら設計を進めてきました。あわせて、施設の使い方や広場・周辺道路の整備方針について、地域の皆さまとの意見交換やワークショップを重ねてきました。町内の小・中・高等学校および隠岐養護学校の児童・生徒の皆さんの声や、2階の利用を希望する事業者との協議も行い、誰もが利用しやすい施設を目指して検討を進めています。

このたび、施設の設計がまとまりましたので、概要をご紹介します。なお建設は令和8年度、オープンは令和9年度を予定しています。



▲フェリーターミナル側から交流館を見たイメージ図



▲交流館と周辺広場・道路を見たイメージ図

「海見える交流館」は、大きな屋根のかかった軒下広場が特徴です。この空間は、誰でも自由に利用できる場として、くつろぎやイベントなど、さまざまな活用を想定しています。

建物1階には、セントラルキッチンと飲食・物販スペースを整備します。セントラルキッチンでは、町内でとれた魚や野菜などの食材を用いて、効率的な食材加工をおこなうことができます。また、飲食スペースでは、店内での食事のほか、軽食のテイクアウトなども可能です。さらに、物販スペースでは、隠岐の味を広く届けるために、町内産の加工品などを販売します。



▲軒下広場から海を見たイメージ図

建物2階は、交流や相談、休息や滞在など、さまざまな過ごし方がひとつの空間の中でおこなえるように設計しています。年齢や立場、目的の有無を問わず、多様な人が利用できる場として整備を進めています。

⑤クリエイティブコミュニケーションプレイス（創造的な活動の場）

シェアキッチンや大型モニター、高速Wi-Fi環境などを備え、世代や立場を超えてさまざまな人々が交流・活動を行う場として設計しています。

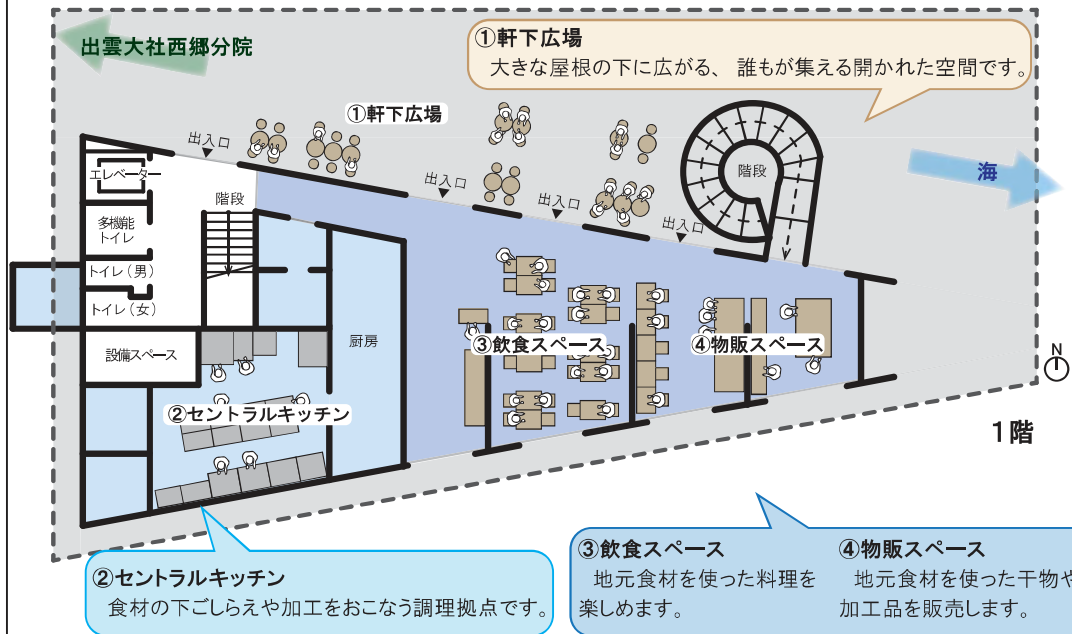
この場所は、イベントやワークショップ、デジタルを使った学びなど、多様な目的で活用できるようになります。



▲交流スペースのイメージ図



▲交流スペースのイメージ図



▲フリースペースのイメージ図

開催報告

みちと広場の色を考えるワークショップを開催しました

開催日時：令和7年11月22日（土）13:30～14:30 / 23日（日）10:00～12:00
会場：うみやまもつとあつまれ（中町目貫の四38）・現地（フィールドワーク）

◆ワークショップ概要

海見える交流館の軒下広場や周辺広場・道路ならびにうみまち通りの舗装仕上げについて、住民の皆さまと一緒に色や素材を考えるワークショップを開催しました。当日は、実際に計画地を歩きながら、舗装材のサンプルも参考に、これからのまちの表情や印象について意見交換をおこないました。グレー系、ベージュ系、赤・茶系の色味を中心に、どのような雰囲気がこのまちにふさわしいか、参加者の皆さまと一緒に考えました。



▲舗装材のサンプル



▲フィールドワークの様子（灘通り）



▲フィールドワークの様子（交流館計画地）



▲フィールドワークの様子（うみまち通り/国道485号）

◆参加者からの意見

ワークショップの参加者からは、「明るく、歩きたくなるような色が良い」「周辺の景観と調和する落ち着いた雰囲気が合いそう」などのご意見をいただきました。

ワークショップ終了後も住民の皆さまからの意見を収集するため、うみやまもつと広場のほか、西郷小学校、西郷中学校、隠岐高校、隠岐水産高校、隠岐養護学校にアンケート用紙を掲示し、引き続きご意見をうかがいました。

皆さまからいただいたご意見は、今後の舗装デザインの検討に活かしてまいります。



▲意見収集の様子

開催報告

大城山通学路・避難路まちあるきワークショップを開催しました

開催日時：令和7年11月20日（木）15:00～16:30
会場：善立寺（西町大城-14）・現地（フィールドワーク）

◆ワークショップ概要

大城墓地に向かうみちは、通学や災害時の避難にも使われる、まちと大城台地を結ぶ重要なみちです。安全で快適に通行できる環境を目指し、現地でのフィールドワークを含むワークショップを開催しました。当日は、みちの使われ方や街灯のあり方などについて、参加者の皆さまからご意見をいただきました。

◆参加者からの意見

通行のしやすさについて

- 一部区間は車の通行が可能になると便利
- 子どもが安心して通学できるようにしてほしい

明るさ・雰囲気について

- 明るく、開かれた印象のあるみちにしてほしい
- みちの色は落ち着いた色のある、厳かな雰囲気が良い

いただいたご意見を参考に、より安心して親しみの持てるみちとなるよう、今後の整備方針を検討してまいります。



▲フィールドワークの様子

開催報告

西郷港周辺にぎわい創出社会実験を実施しました

開催日時：令和7年11月9日（日）～12月11日（木）
場所：国道485号 西郷港フェリーターミナル前からうみやまもつとあつまれ前まで



詳細は都市計画課Instagramでも公開中です

◆実施期間中の取り組み

11月から12月にかけて実施した社会実験では、フェリーターミナル前の国道485号に仮設の滞留空間を設け、通行や滞在の在り方を検証しました。

期間中は、ベンチやテーブルの設置に加え、オープンカフェや屋台出店、子どもの遊び場の展開など、さまざまな過ごし方を促す仕掛けを試みました。時間帯や天候による人の流れや滞在の様子の変化を観察し、現在は得られた気付きを整理・分析しています。これらの結果は今後の整備に活かしていく予定です。

◆竹灯籠づくりワークショップを開催しました

社会実験の一環として、「竹灯籠づくりワークショップ」を全4回開催しました。参加者が竹に穴をあけて模様を付け、竹灯籠を製作しました。完成した竹灯籠はうみやまもつと広場内に12月25日まで展示され、イルミネーションとともに夜の広場を照らし、竹の隙間からこぼれるあかりが通りに彩を添えました。

ワークショップには子どもから大人まで幅広い世代が参加し、それぞれが工夫を凝らしたデザインに取り組む様子が見られました。竹灯籠の製作や展示を通じて、広場や通りに人が立ち寄り、過ごす場面が生まれ、にぎわいを生み出す空間活用の一事例となりました。



▲社会実験期間の様子（まちづくり説明）



▲ワークショップの様子



▲ワークショップの様子



▲完成した竹灯籠



▲うみやまもつと広場の様子

ご挨拶

本年も、西郷港周辺まちづくりに多くのご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。令和7年のおもな取り組みを振り返ります。

- 3月「海見える交流館」設計者と運営事業者が決定
- 5月「第8回地権者の会」を開催
- 6月「まちづくりシンポジウム」を開催 まちづくりの全体像と交流館の計画概要を広く周知
- 7月 高校生企画イベント「うみやまもつと広場華やか大作戦」を開催
- 8月「景観計画策定委員会」を発足
- 9月「海見える交流館と周辺整備についてのワークショップ」を開催
- 11月「西郷港周辺にぎわい創出社会実験」を実施
高校生企画イベント「西郷港周辺まちづくりフェス2025」を開催
「大城山通学路・避難路まちあるきワークショップ」を開催
「歩いて楽しいまちにむけて みちの色と素材を考えるワークショップ」を開催

シンポジウムや各種ワークショップのほか、子どもたちを対象としたまちづくり授業などを通じて、地域の皆さまとの対話を継続してまいりました。引き続き西郷港周辺まちづくりにご理解とご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



▲シンポジウムの様子



▲まちづくりフェス2025の様子

EVENT① 海の見える交流館の周知と活用に向けた体験イベントを開催しました



▲広場でミニ四駆を走らせる子どもたちの様子

3月22日(日)に海の見える交流館の周知と、活用方法に関する意見をうかがうことを目的とした体験イベントを、うみやまもつとあつまれで開催しました。当日は、子どもや親子連れを中心とした参加者が集まりました。

最初に、交流館の説明を行ったあと、建設予定地周辺のまち歩きを行い、施設が整備される場所や周辺環境を共有しました。



▲まち歩きの様子



▲建設予定地で説明を聞く参加者の様子

その後、交流館で想定される世代を超えた交流や活動の一例としてミニ四駆づくりをおこないました。完成したミニ四駆は、ボランティアの協力により設営されたコースで走行し、会場ににぎわいが生まれました。参加者からは交流館の活用に関する様々な意見が寄せられ、「交流館や広場でミニ四駆を走らせたい」といった声も聞かれました。今回のイベントでは、交流館で生まれる活動の一事例を具体的に体験していただく機会となりました。

EVENT② 旅立ちの日の西郷港ににぎわいが生まれました

3月1日(日)に、隠岐水産高校主催の「旅立ちマルシェ」に出展し、西郷港周辺まちづくりの取り組みや、海の見える交流館の計画を紹介しました。会場となったフェリーターミナルの海側広場には多くの来場者が訪れ、海に面した空間でにぎわいが生まれる様子が見られました。高校生の門出を祝う催しとあわせて、みなとの空間がまちの魅力を感じられる場として活用される可能性が示されました。



▲会場の様子



▲会場の様子

NEWS① 都市再生推進法人を指定しました

町では、西郷港周辺まちづくりを行政と地域が連携して進めていくため、「一般社団法人 隠岐まちづくり研究所」を都市再生推進法人に指定しました。

■都市再生推進法人とは

都市再生特別措置法に基づき、自治体が指定する「まちづくりの担い手」です。地域での活動実績や専門性を持つ団体が行政と連携して地域の再生やにぎわいづくりに取り組みます。

■指定団体「隠岐まちづくり研究所」とは
隠岐まちづくり研究所は、西郷港周辺を中心に、にぎわいづくりや公共空間の活用に取り組む団体です。

都市再生推進法人と協働し、持続的なまちづくりに取り組んでいきます。



NEWS② 交流館のメニュー開発が進行中です

交流館の飲食・物販スペースで提供する商品の開発が進んでいます。まちの魅力を感じられる新しい味わいづくりが進められており、オープンに向けた準備が進んでいます。



▲メニューのイメージ図

▲メニューのイメージ図



今年度、海の見える交流館が建設されます

西郷港周辺まちづくりプロジェクトに関するニュースレター Vol.7 をお届けします。このニュースレターでは、現在進行中のプロジェクトに関する取り組みを町民の皆さまへお知らせしています。

いよいよ今年度から海の見える交流館の建設が始まります。国に要望した補助金が満額採択され、オープンに向けた準備が着実に進んでいます。

今号では、交流館と周辺整備の計画、交流館整備に対するご意見と今後の町の対応についてお伝えします。あわせて関連イベント等の様子も掲載しています。



町では、西郷港周辺まちづくりの一環として、「海見える交流館」の整備を進めています。海とまちをつなぐ新しい拠点として、令和9年度のオープンを目指しています。

◆ 海見える交流館はこんな施設です

交流館は、軒下広場を中心に周辺広場と一体となった、海とまちをつなぐ複合施設です。1階は「隠岐の島の食」を楽しめる場、2階は地域の創造や交流が生まれる場を計画しています。また、2階のテラスからは西郷湾を望むことができます。

■ 軒下広場

大きな屋根の下にある、誰でも自由に使える広場です。休憩やイベントなど、様々な使い方ができます。

■ 1階 隠岐の島の食のフロア

隠岐の島の食を楽しめる店内飲食スペースでは、軽食のテイクアウトなども可能です。また、地元食材の加工を行うセントラルキッチンや、特産品の販売スペースも整備します。

■ 2階 クリエイティブコミュニケーションプレイス

シェアキッチンや大型モニター、高速Wi-Fi環境を備え、世代や立場を超えて様々な人が交流・活動を行う場となります。イベントやワークショップ、デジタルを使った学びなど、多様な目的で活用できます。

例：DX学習、高齢者サロン、福祉相談、養護学校によるカフェ、作品展示 など



▲フェリーターミナル側から交流館を見たイメージ図



▲軒下広場から海を見たイメージ図



▲2階の活用イメージ図

◆ 海見える交流館周辺は歩きやすいみちに変わります

交流館周辺では、歩行者が安心して通行できる環境の確保と、海とまちをつなぐ空間づくりをおこなうため、歩車共存型の道路整備を進めています。この整備により、交流館のまわりの道路環境がかわります。

- 車両の速度を抑え、歩きやすいみちづくりをおこないます
- 歩行者の安全性と交流館周辺の空間の一体感を高めるため、灘通りの一部を歩道にします



歩行者が安全に歩きやすいみちになります
車両の通行は可能です。歩行者に配慮し減速して通行をお願いします

歩行者が安全に歩きやすいみちになり、一部を歩道として整備します。
一部区間は歩道化に伴い、車両での通り抜けができません

◆ 海見える交流館整備に関するご意見と今後の進め方

交流館の整備については、これまでに住民の皆さまから様々なご意見が寄せられています。ここでは、これまでの主な経過と、今後の町の対応についてお知らせします。

請願書の提出 西郷中町町内会連合会会長ほか役員10名

令和8年2月18日、交流館整備に関連して、西郷中町町内会連合会会長ほか役員10名の方から、議会に請願書が提出されました。

請願① 町道の幅員維持

ポートプラザ館・旧いりふね・サッカー間に位置する町道について、幅員を縮小せず現状のまま維持することを求める。

請願② 灘通りの通行確保

灘通りについて、一部車両通行止めをせず現行通り通行可能とすることを求める。

意見書の提出 西郷港周辺地区地権者会代表ほか19名

請願書の提出を受け、令和8年3月12日に、西郷港周辺地区地権者会代表ほか19名の方から、議会および町長あてに意見書が提出されました。

意見① 公平性への強い懸念

現状維持の請願のみが審議され、推進側の意見が反映されていない。8年間の合意形成の努力と民主的手続きが軽視されている。

意見② 地権者の覚悟と計画の合理性

先祖代々の土地を提供する地権者の決意を正当に評価すべき。新道路計画は交流館・景観と一体となり地域の魅力と安全性を高める。

意見③ まちづくりの将来性

8年間の議論を経て計画は十分成熟している。現状維持は地域衰退につながるため、計画推進が不可欠である。

議会の対応

議会において、令和8年2月18日に提出された2件の請願について審議が行われ、3月13日にいずれも採択されました。あわせて、町に対して次の内容の附帯決議がなされました。

① 丁寧な住民説明

道路幅員縮小・通行止めを含む路線計画について、地域住民へ十分かつ丁寧な説明をおこなうこと。

② 計画の見直し検討

歩行者の安全性と生活道路の利便性を確保するため、必要に応じて計画内容の見直しを含む検討をおこなうこと。

③ 慎重な予算執行

協議・進捗を常任委員会に報告し、住民の理解が得られたことを確認したうえで慎重に予算を執行すること。

町の対応

住民の皆さまからのご意見や議会からの要請を受け、町では以下の対応を進めます。

① 地元の皆さまへのご説明と意見交換会をおこないます

- 中町（1～9町内）・西町（天神町）の各町内会ごとに意見交換会をおこないます。
- 西郷港周辺地区地権者会に対しても、意見交換会をおこないます。

② 町内の各会議において説明します

アイノマゲート推進協議会（西郷港周辺まちづくりを地域の関係団体と専門家が検討する協議会）および町内の各地区区長会において説明します。

③ 皆さまのご意見をもとに計画の検討をおこないます

町では、計画の内容を住民の皆さまに丁寧にお伝えするとともに、いただいたご意見を踏まえて必要な対応の検討を進めてまいります。

また、意見交換会等で寄せられたご意見はニュースレターで住民の皆さまにお知らせし、その内容は議会にも共有してまいります。今後も住民の皆さまとの対話を続けながら、まちづくりを進めていきます。



▲中町8町内意見交換会の様子



▲地権者会の様子

NEWS① 世代をつなぐまちづくり授業「まちのしごととくらしマップ」をおこないました

町では、地域への愛着を育み、将来のまちづくりを担う世代を育てることを目的に、学校と連携した「まちづくり授業」を継続して行っています。

令和7年度は、地域の仕事や暮らしを子どもたちの視点で可視化し、まちとの関わり方や将来の姿を思い描く機会とすることをねらい、「まちのしごととくらしマップ」の授業をおこないました。西郷小学校6年生と西郷中学校3年生が参加し、インタビューやデジタル技術を活用した記録作業に取り組みました。



▲インタビューの様子



▲成果発表会の様子

授業では、地域で働く方々を訪問し、仕事内容や大切にしている思いなどについて話をうかがいました。さらに、スマートフォンアプリを用いて建物等を3Dスキャンし、得られた情報を整理してデジタルマップを作成しました。

このマップには、児童生徒が取材や記録を通して自らの視点でまとめた内容が反映されています。完成したデジタルマップは、児童生徒が成果を共有する際に活用しました。今後、町のホームページでの公開を予定しています。



▲完成したデジタルマップの表示画面

NEWS② 景観計画の策定を進めています



▲景観計画策定委員会の様子

隠岐の島町では、豊かな自然や歴史ある街並みを次の世代へ引き継ぐため、景観計画の策定を進めています。令和7年度は、策定委員会において、町内全域を対象とした建築行為等の事前届け出制度や、デザイン等のルール設定の方向性を整理しました。また、西郷港周辺を「景観形成重点区域」と位置づけ、その区域における景観づくりの考え方をまとめました。

令和8年度は、これまでの検討内容をもとに、住民の皆さまへの意見募集をおこないながら、計画の最終案をとりまとめ、年度末に景観計画を策定する予定です。

NEWS③ 日本PPP・PFIセミナーで発表しました

4月20日に開催された「第243回日本PFI・PPP協会セミナー」で、西郷港周辺まちづくりの一環として進めている官民連携の取り組みを紹介しました。PFI・PPPは、公共施設の整備や運営に民間の力を活用する手法で、今回のセミナーでは本町での進め方や状況を説明しました。セミナーには全国から185団体・411名が参加し、発表内容に関心を寄せる参加者も多く、本町の取り組みを知っていただく機会となりました。

NEWS④ 各地から視察がありました

全国市町村会や国土交通省中国地方整備局の皆さまが来町し、西郷港周辺まちづくりの背景や進め方について意見交換をおこないました。



▲全国町村会視察の様子

INFORMATION① うみやまもつと広場のご案内

子ども用の遊具やブランコ、黒板などを設置し、過ごしやすい空間づくりを試行しています。



▲うみやまもつと広場の様子



海の見える交流館の整備が前に進んでいます

西郷港周辺まちづくりプロジェクトに関するニュースレター Vol.8をお届けします。このニュースレターでは、現在進行中のプロジェクトに関する取り組みを町民の皆さまへお知らせしています。

海の見える交流館の整備に向けた動きが少しずつ前に進んでいます。交流館と周辺整備の計画について、町では説明や意見交換をおこないながら検討を進めてきました。今号では、その取り組みの概要と、意見交換会で地域の皆さまからうかがったご意見をお伝えします。あわせて、関連する取り組みについても掲載しています。



海見える交流館整備に向けて、地域の声をうかがいながら進めています



▲交流館外観イメージ図

町では、海とまちをつなぎ、世代をつなぐ新しい拠点として、「海見える交流館」の整備を進めています。交流館の周辺は、歩きやすく安全な空間となるよう、みちや広場の整備を計画しています。

海見える交流館は、軒下広場を中心に周辺広場と一体となった複合施設です。1階は「隠岐の島の食」を楽しめる場、2階は「交流や学びなどを通じて地域の活動やアイデアが生まれる場」を計画しています。

◆海見える交流館周辺整備について

交流館周辺は、歩行者が安心して通行できる環境の確保と、海とまちをつなぐ空間づくりを行うため、歩車共存型のみち整備を進めています。

- 車両の速度を抑え、歩きやすいみちづくりをおこないます
- 交流館・ターミナル・ポートプラザの動線が重なる難通りの一部を歩行者中心の空間にします

令和8年3月議会では、この内容に関して、道路の通行や幅員の現状維持を求める請願が採択されました。あわせて「丁寧な地域住民への説明」「必要に応じた計画の見直し検討」「慎重な予算執行」を求める附帯決議が出されました。

◆住民の皆さまと意見交換をおこなっています

町では、議会からの附帯決議を受け、中町や西町の町内や各会議で説明と意見交換を進めています。

中町1～9町内および西町1・2町内の皆さまとの意見交換会では、計画地周辺を歩きながら説明を行い、参加者の皆さまから様々なご意見をうかがいました。難通りや町道西郷142号線の使い方について現状維持を望む声もありましたが、まちづくりの現状や方向性については、町からの説明や意見交換を通じて、「内容が理解できた」「特に支障はない」といった声が多く寄せられました。



▲意見交換会の様子



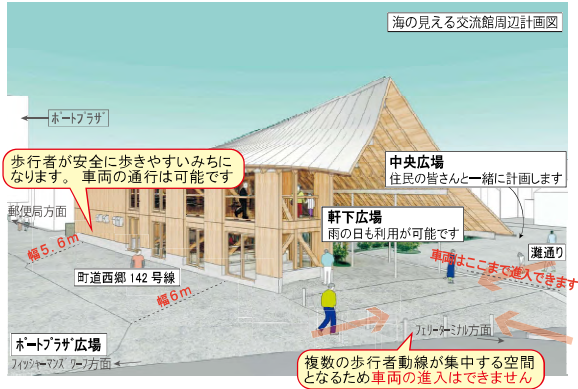
▲意見交換会の様子

■難通りについての意見

- ・通行止めになっても慣れれば問題ない。
- ・すべて歩道化したほうが安全で良い。
- ・現状と幅員が変わらないのであれば問題ない。
- ・普段はあまり車で通らない。
- ・車両通行止めにしなくてほしい。
- ・通り抜けが出来ないと広場でのUターンが難しく危険。

■町道西郷142号線についての意見

- ・みちが狭くなっても車がすれ違えるなら問題ない。
- ・狭くなくても気を付けて通行すれば問題ない。
- ・郵便局へ行く際は別ルートを使うので影響はない。
- ・車で通行する際に不便なので現状の幅員を維持してほしい。
- ・臨港道路からの出入りが狭くなると使い勝手が悪い。



海見える交流館周辺計画図

「ポートプラザ」
「中央広場」住民の皆さんと一緒に計画します
「軒下広場」雨の日も利用が可能です
「ポートプラザ広場」
「難通り」
「歩行者が安全に歩きやすいみちになります。車両の通行は可能です」
「幅5.0m」
「幅6m」
「複数の歩行者動線が集中する空間となるため車両の進入はできません」
「車両はここまで進入できます」

開催した意見交換会ほか一覧

日時	対象
3月22日(日)	中町8町内
3月27日(金)	中町9町内
3月29日(日)	西郷港周辺地区地権者会
3月30日(月)	アイノゲート推進協議会
4月5日(日)	中町6町内
4月12日(日)	中町7町内
4月13日(月)	出雲大社総代会
4月16日(木)	中・布施地区(区・自治会等コミュニティ連絡会)
4月17日(金)	西郷地区(区・自治会等コミュニティ連絡会)
4月19日(日)	中町1町内
4月19日(日)	西町1・2町内
4月22日(水)	風待ちサロン
4月22日(水)	五箇地区(五箇地区区長会)
4月26日(日)	中町全体(町長出席)
4月27日(月)	都万地区(都万地区区長会)
5月11日(月)	中町2・3町内
5月12日(火)	中町4・5町内
5月15日(金)	アイノゲート推進協議会

◆中町全体を対象とした意見交換会をおこないました

4月26日(日)には、中町地区全体と町長を交えた意見交換会を、ポートプラザ2階大会議室でおこないました。

当日は、交流館と周辺整備の概要や、これまで各地区でうかがってきた主な意見を整理して共有しました。そのうえで計画の考え方やこれまでの経緯について説明し、会場からの質問や意見に町長が直接お答えする形で進行了。



▲意見交換会の様子

■意見交換の内容

この意見交換会では、みちの幅や交流館周辺の計画に関する質問が多く寄せられたほか、広場の使い方やまちづくり全体についても様々な意見が寄せられました。(以下、意見交換会より抜粋)



みちについては、車のスピードを出さないような工夫があるので、この計画であれば危険はないと思う。



142号線について、軒が出る部分は道路法上の道路ではないはずである。その扱いをどう考えているのか気になっている。大きな軒下を設けるのではなく、もっと小さくまとめる方法があるのでは。



道路法上の道路に該当しない部分も含め、みち・敷地・広場を一体的に使う考え方で計画を整理しています。大きな軒下は、交流館の利用により人の出入りが増えることを踏まえ、来訪者や歩行者を受け止める空間として必要だと考えています。



広場がいくつか計画されているが、どれだけ利用されるのか疑問に感じている。船から降りてきた人が休めるような場所が欲しい。



子どもが遊ぶ所が少ないので、子どもが遊べる広場になると良いと思う。



駐輪場および交流館や周辺施設利用者の駐車場も考えてほしい。



広場の使い方については、今年度、住民の皆さまと一緒に考え、社会実験をおこないながら計画を立てていく予定です。また、自転車置き場や駐車場については、交流館や広場だけでなく、西郷港周辺全体の利用のあり方との関連も踏まえて整理していく考えです。



現状、中町には空き家が多く、寂しく感じている。まちづくりについては役場だけで決まらずに住民と話し合う場を設けてほしい。



西郷港周辺まちづくりは、8年間、住民の皆さまと対話をしながら進めてきました。今後も住民参加型のまちづくりの取り組みを着実に進めていきます。



隠岐を一度離れた子どもたちが帰ってきたいと思えるようなまちにしてほしい。



町では継続的に小学校、中学校、高等学校、養護学校を対象としたまちづくり授業を実施しています。子どもたちの方から個人としてもまちづくりに積極的に関わりたいという提案が出ています。このような次の世代の視点も大切にしながら、地域の将来を見据えた取り組みを進めていきます。



今回の意見交換会では、これまで各地区でうかがってきた内容も踏まえ、地域の皆さまがどのようなまちの姿を望んでいるのかを改めて確認する機会となりました。

交流館と周辺整備については、議会での請願採択や附帯決議の内容を受け、住民の皆さまへの説明や計画内容の整理など、町として必要な対応を進めてきました。今回の意見交換会で寄せられたご意見も、これまでの意見交換会でいただいた内容とあわせて整理し、今後の整備を進めてまいります。

■今後の予定

海見える交流館は、令和9年度のオープンを予定しています。
周辺広場については、令和8年度に住民の皆さまのご意見をうかがうワークショップを開催予定です。